花尾神社の石塔群

記念物 (史跡)

平成 17年3月31日指定

所在地: 鹿児島市花尾町

所有者:花尾神社

市指定の文化財

月輪塔は、鎌倉末期、元徳元(1329)年に建立されたもので僧快善の逆修塔である。

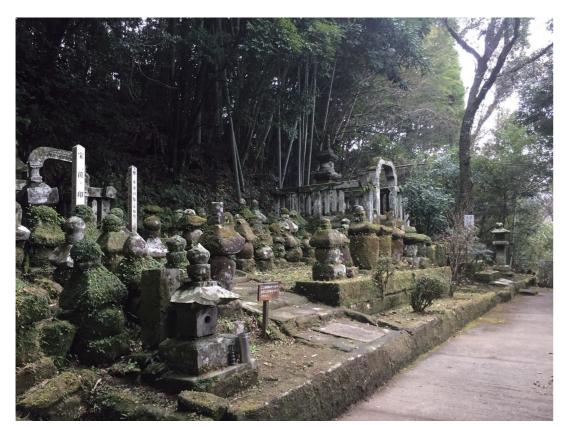
宝篋印塔は、室町初期、永徳4(1384)年 に建立されたもので藤原姓・相良姓次男家出 家の逆修塔ではないかと言われている。

丹後の局の墓といわれる多宝塔は、近世の ものと思われるが、南九州では数少ない立派 な造形である。

このほか一石五輪塔や御苔石塔等数十基に 及ぶ石塔群がある。







花尾神社の石塔群

常盤五輪塔群

記念物(史跡)

平成 17年3月31日指定

所在地:鹿児島市郡山町

所有者:個人

古くから常盤御前の墓といわれる数基の五輪塔があったが、昭和56(1981)年に、埋没散逸していた100基余りの五輪塔、宝塔、層塔などを復元した。墓地入り口に、明和2(1765)年の庚申供養塔等がある。

大型五輪塔は、鎌倉期の川田氏一族のもの と同型と推定され、中世の歴史を知ることの できる貴重な石塔群である。





常盤五輪塔群

加田氏累代墓石塔群

記念物 (史跡)

平成 17年3月31日指定

所在地: 鹿児島市川田町

所有者:個人

市指定の文化財

第12代川田駿河守義朗の墓を始め、11代 義秀以降26代川田佐徳までの累代及び大川 寺代々の住職の墓石塔群が11基ある。

宝篋印塔、五輪塔、無縫塔、角石塔婆が数多くあり、保存状態もよい。また、地蔵墓や合掌地蔵立像や、万治2(1659)年時の大川寺住職天安禅師が寄進したと伝えられる石燈籠がある。

川田氏は源姓、比志島氏の庶家で満家院(郡山町)、川田名主であった。







川田氏累代墓石塔群

都迫の念仏かくれ窟

記念物(史跡)

平成 17年8月1日指定所在地: 鹿児島市本名町

所有者:個人

薩摩の厳しい念仏弾圧に耐え、浄土真宗の教えを伝える場として作られた洞窟で、その信心の堅さと禁教の厳しさを知る上での貴重な史跡である。

崖崩れにあう以前は、入口が崖の中程にあってその所在は分かりにくくなっていた。内部は、くの字に2回曲がり、上向きに空気抜き穴もあり、奥には約397cm × 206cmの小部屋が設けられている。







都迫の念仏かくれ窟

き いれ おろ あと 喜入牧の笠跡

記念物 (史跡)

平成27年9月2日指定

所在地: 鹿児島市喜入一倉町

所有者: 鹿児島市

市指定の文化財

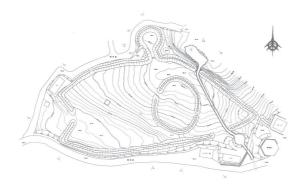
鹿児島市観光農業公園の周辺は、喜入牧と呼ばれ、古くから馬の放牧が盛んであった。旧牧、外戸ノ口、外戸ノ下など、牧に関する字名が残っているほか、観光農業公園には笠とよばれる土塁状の馬を追い込む場所もほぼ完全な形で残っている。江戸期に喜入牧は肝付氏の私営牧となり、馬の選定のための馬追い行事が年一回行われていたとされる。

馬追い行事は地域の一大行事(祭り)としての面もあり、村々の多くの人々が観衆として集まったほか、領主肝付氏も鹿児島城下から帰郷して観覧するのが通例であった。万延



元 (1860) 年には小松帯刀も観覧したとの記録が残っている。

平成 27 (2015)年、鹿児島市の記念物 (史跡) に指定された。



喜入牧の芸跡実測図



喜入牧の苙跡

156

慈眼寺跡

記念物 (名勝)

昭和49年8月23日指定

所在地: 鹿児島市下福元町

所有者: 鹿児島市

慈眼寺跡は、推古天皇の頃、百済(韓国) の日羅上人が開いたと伝えられる寺のあった ところで、日羅上人の制作した聖観音像が置 かれていたという。

15代島津貴人の時に改宗して福昌寺の末寺となり曹洞宗の寺として栄えた。その後、18代家久の菩提寺となり、家久の号をとって慈眼寺と名づけた。

て慈眼寺と名づけた。 慈眼寺は、坊津の一乗院、志布志の宝満 寺とともに、薩摩の三寺の一つであった名刹 であるが、廃仏毀釈によって壊され、聖観音 堂の跡には、現在、稲荷神社が建てられてい る。寺跡には、この他に石橋や磨崖碑、各種



の石像、和尚の墓等が残っている。

また、この地域は樹木に覆われた谷合で、 世がきょう 仙境として昔からよく知られた名勝でもある。

この地の渓谷は、和田川の上流にあたり、 西岸と川底は、この地域の地層を形成する安 山岩であり、長い年月の流水の侵食によって 深くえぐられて、独特の渓谷美をつくり出し ている。

さらには、地域には数百本のイロハモミジ 等が植栽され、近郊随一の紅葉の名所でもあ り、清流や巨岩奇岩と相まって散策に適した 場所になっている。



慈眼寺跡

藤崎家の大楊梅

天然記念物 (植物)

平成 17年3月31日指定

所在地: 鹿児島市桜島藤野町

所有者:個人

市指定の文化財

17代島津義弘は、関ヶ原の戦いの後、慶長6(1601)年4月徳川氏に恭順の気持ちを表すために桜島藤野に移り2か月ほど藤崎家に蟄居した。このとき、義弘は築山を造り、楊梅を植えたといわれる。

樹齢約 400 年と推定され、現在高さ 10m、 幹周 3.5m、樹冠 165㎡ほどの大楊梅となっ ている。この株は隔年毎によく果実をつける という。



同所には幹周 2.1m を越えるヤブツバキ、イヌマキの大径木や大株のシュロチク、ケラマツツジもあり、過去には大ソテツもあったといわれている。いずれも江戸期からの樹木と推定され、鹿児島の武家文化の一端が現れている。



藤崎家の大楊梅

キイレッチトリモチ 自生地

天然記念物(植物)

平成 17年3月31日指定

所在地: 鹿児島市喜入町

所有者: 鹿児島市

キイレツチトリモチは、明治 43 (1910) 年 喜入小学校教員山口静吾がこの地で発見し、 牧野富太郎博士により命名された大変珍しい 植物である。

キイレツチトリモチは、ネズミモチ、トベラ、シャリンバイ等の根に寄生し、10~11 月頃に黄色の花茎を地表から出す。花茎は直立し高さ3~10cm程度で、ツクシを大きくしたような格好である。花茎の頂部に細長い花穂があり、その中に多数の雄花と雌花がある。雄花は散在して咲き、成熟すると多量の蜜をだして黒くなり、黄色い中に黒い斑点が現れる。雌花は花穂の中で散在する雄花を埋めるようにびっしりと粒状になって分布している。



なお、その後鹿児島市吉野町桜谷でも多数 自生しているのが見つかり、桜谷は国の天然 記念物に指定された。





キイレツチトリモチ自生地

159

郡山花尾神社の社叢林

天然記念物(植物)

平成31年2月7日指定

所在地: 鹿児島市花尾町

所有者: 花尾神社・株式会社 島津興業

薩摩藩主島津家ゆかりの地として正徳3 (1713)年に再建されたといわれる花尾神社の社殿及び社叢(丹後の局の墓石群周辺を含む)は荘厳、神聖な場所として保護され、当時植栽されたと推定される樹木や自然林の一部が現在でも巨樹となって生き残っている。

社叢はほとんどがスギの人工林であるが、神社本殿の後背部、川田川と神社参道部との間、隣接する花尾神社石塔群の碑後背部の3地点にイチイガシ林が残る。

このイチイガシ林は胸高直径が1mを超えるイチイガシを含み、構成種も多様で特徴的な種を含んで希有の森林植物相となっている。群落的には西南日本の内陸部に発達する代表的な自然林の1つのイチイガシールリミノキ群集であり、県内も含め現存する群落は



狭小で貴重である。

また、花尾神社のスギ林は薩摩の在来品種のメアサスギで、葉が硬くて、葉量が少なく、成長がやや遅く、花粉の形成量も少ない。材は白くて中心部は赤みが強く美しい材であったため、薩摩藩はこの杉の植栽を奨励した。スギの林齢は若いところで130年、参道に沿うところで300年と推定される。拝殿前庭への階段付近やコミュニティセンター付近には樹高33m前後、胸高直径が70-120cmの大木も多数ある。

スギは建築材として優れ、一般には35年を経過すると伐採利用されるため、主に戦前に植林されたメアサスギは伐採適期を過ぎてほとんどが伐採されている。メアサスギでこのような森は九州内でも少なくなっている。



郡山花尾神社の社叢林

登録有形文化財